

性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会  
(第25期・第13回) 議事要旨

1 日時 令和5年2月24日(金) 10:00~12:00

2 場所 オンライン会議

3 出席者：渡辺美代子、名越 澄子、河野 銀子、高瀬 堅吉、  
伊藤 公雄、上田 修功、能瀬さやか  
(事務局) 内山 貴裕、大越 詳一

4 議事要旨

(1) 前回の議事要旨の確認

前回の議事要旨を共有し、今後の議論の方向性を確認した。学術フォーラム「性差研究に基づく科学技術・イノベーション」について、各方面から大きな反響があったことが共有された。

(2) 省庁との意見交換

資料1に基づき、文部科学省との意見交換の様子が共有された。

2月13日(月)10:00~10:30に、科学者委員会 男女共同参画分科会 性差に基づく科学技術イノベーションの検討小分科会委員による文部科学省への見解の説明があった。日本学術会議からは渡辺美代子委員長、望月眞弓副会長(男女共同参画分科会委員長)、内山学術会議事務局が参加した。文部科学省からは、柿田恭良科学技術・学術政策局長、人材政策課の近藤課長補佐、袴田課長補佐、對崎課長補佐が参加した。渡辺委員長より見解(要旨)の説明があり、従来の提言は男女平等の観点が多かったが、本見解はそれぞれの分野での性差の区別について述べていること、ジェンダー統計は「n/a(データが存在しない)」項目が多く、学校基本調査では大学院の男女比が示されていないことなどを伝えた。局長との懇談では、局長から欧州におけるジェンダード・イノベーションの状況について質問があり、渡辺委員長からジェンダー研究として2014年からHorizon2020、その後Horizon Europeと進んでいったことが伝えられた。また、局長から、見解を通じて「性スペクトラム」という複雑な知見があることは理解したとの発言を頂いた。

(3) 今後の活動について

今後の活動方針について意見交換を行った。下記に詳細を示す。

- 書籍の出版について
- 「ジェンダード・イノベーション」出版企画について、交渉中の出版社より企画不承認のご連絡を頂いた。企画不承認の主な理由として、授業・講義の教科書指定企画ではな

いこと、比較的新しいテーマで関心はあるものの、報告書・研究論文集的な印象がぬぐえず、初版 1000 部は見込めないこと、読んでもらいたいと想定している対象も学生／研究者・人社系／理工系と広げすぎて、販売価格 3,600 円が適切であるかの判断が難しいことが挙げられていた。

- 教科書を出版するのではなく、企業向け書籍としての出版を再企画してはどうか。その過程で一般社団法人 日本経済団体連合会等に書籍の内容をアピールしてはどうか。
- 企業向けの書籍とした場合、書き方の工夫が必要である。
- 想定される読者数を試算したほうがよい。もしくは、想定される読者層で既に売れている書籍を出版社に伝え、それをモデルに書籍の内容を企画するのが良い。
- 書籍「技術者倫理 グローバル社会で活躍するための異文化理解」を用いた授業が高等専門学校で必修となっている。そのため、今回企画する書籍も高等専門学校向けに作成してはどうか。
- 理工系・技術系の方のためのジェンダード・イノベーションの入門テキストを作成し、まずは高等専門学校向けに展開するのはどうか。
- 2,000 円台にすると、手に取りやすいのではないか。
- 独立行政法人国立高等専門学校機構に働きかけるのが良いと思う。
- 理工系・技術系の方のためのジェンダーイノベーションの入門テキストというかたちで内容を再構成し、改めて出版社に企画を提出する。採用されたら独立行政法人国立高等専門学校機構に働きかける。
- 「ジェンダー」という用語が、想定される読者に誤解を与える可能性があるので「性差研究に基づくイノベーション」というタイトルがよい。

● 日本学術会議内部における見解の周知について

- 第一部では河野委員、第二部では名越副委員長、第三部では野尻委員が関係各部に周知した。
- 見解の自閉症スペクトラム障害の記述について、生物学的性のみが重要であると解釈されるうる記述があるとのコメントをいただいた。
- 上記について、見解の記述自体に誤りはないが、頂いたコメントを小分科会内で共有し、議論することは重要であるとする。

● 小分科会有志によるサイエンスアゴラへの企画出展について

- 参加者は科学に関心の高い方が多いので、そういった方向けの科学コミュニケーションとして出展するのはよいが、各委員が割ける時間を考えて出展を検討する。

● 学術の動向への寄稿について

- 4 月に出版される学術の動向にジェンダードイノベーションにもふれた記事掲載される予定である。

- 若い方向けに行う対談動画・コミック等による周知について
  - 小分科会ではなく、別の組織で検討するのがよい。
  - 代わりに、若い方向けのシンポジウムを開催するのはどうか。
  - サイエンスアゴラで展開するのが良いのではないか。
  
- LGBTQ+の方たちへの発信
  - 書籍等での発信が良いのではないか。
  
- その他
  - 男女局との意見交換について、引き続き、調整を行っていく。

#### (4) その他

- 日本学術会議の会員と連携会員の選考は進んでいる。ただし、政府提案の諮問委員会との関係性については着地点が見いだせていない。
- 次回の小分科会は、出版やサイエンスアゴラへの出展等、議論すべきことが生じた際に開催する。また、25期が終わるまでに、これまでの活動の総括を行うために、小分科会を一度は必ず開催する。

以 上